スリランカの国際企業
エクスポランカ社への投資と
弊社のグローバル戦略

2016年10月14日

SGホールディングス株式会社　代表取締役

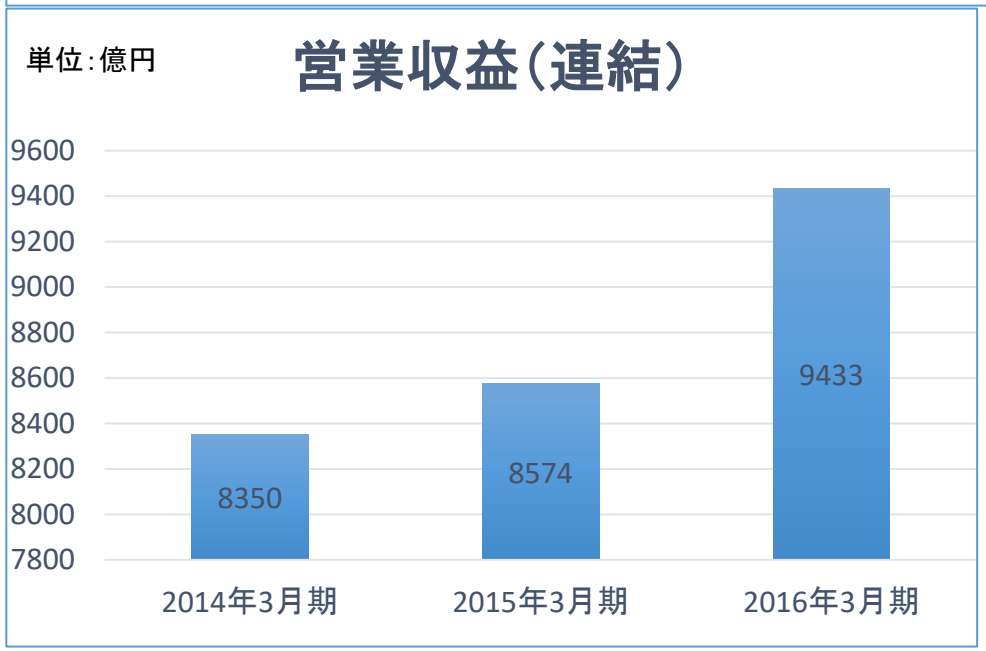
Expolanka Holdings PLC　Chairman

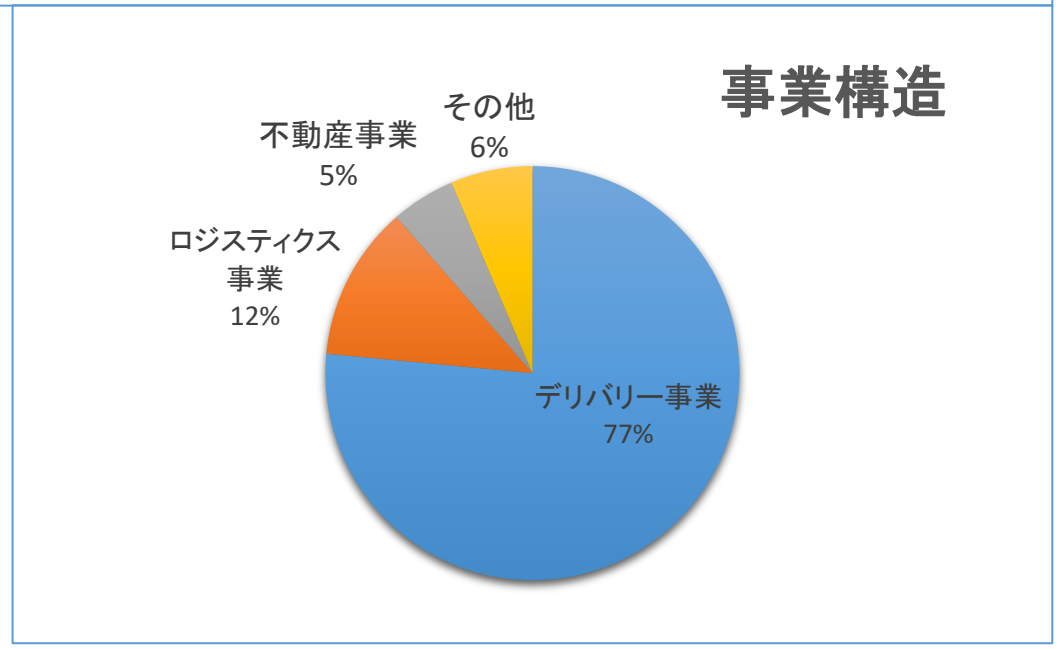
近藤　宣晃

ＳＧホールディングスグループ概要

SGホールディングス・グループ概要

■本社:	京都府京都市南区上鳥羽角田町68番地
■東京事務所:	東京都江東区新砂2丁目2番8号
■代表取締役会長:	栗和田榮一
■設立:	2006年3月
■資本金:	118億82百万円
■従業員数:	83,954名（2016年3月時点）
■事業内容:	デリバリー事業、ロジスティクス事業、不動産事業、その他





沿革

1957年	3月	佐川急便創業者・佐川清が京都において、京都一大阪間を主体とした飛脚業を開始する
1962年	6月	「有限会社・佐川」設立
1965年	11月	「佐川急便」設立
1980年	5月	「佐川自動車工業（現SGモータース）」設立
	9月	「佐川航空（現SGHグローバル・ジャパン）」設立
1983年	2月	「佐川コンピュータシステム（現SGシステム）」設立
1986年	2月	「財団法人佐川留学生奨学会（現・公益法人SGH財団）」設立
	10月	「財団法人佐川国際経済協力会（現・公益法人SGH財団）」設立
1990年	8月	「佐川急便（香港）」設立
1997年	6月	「佐川急便ベトナム」設立
	8月	「佐川急便フィリピン」設立
1998年	7月	「佐川急便シンガポール」設立
2003年	1月	「上海大衆佐川急便物流有限公司」設立
	9月	「保利佐川物流有限公司」設立
2004年	6月	「上海保利佐川物流有限公司」設立
		「天津保利佐川国際有限公司」設立

2005年	1月	「佐川急便コリア（現・佐川ロジスティックス・コリア）」設立
	3月	「タイ・コンテナ・ディストリビューション・サービス」に資本参加。「佐川急便コンテナディストリビューションサービス」と改名。
	6月	「佐川急便インドネシア」設立
	9月	「台湾佐川急便国際股ブン有限公司」設立
2006年	3月	純粋持ち株会社「SGホールディングス」設立
	8月	「佐川急便マレーシア」設立
	12月	佐川グローバルエクスプレス（現・佐川グローバルロジスティックス）と中国速逓服務公司が国際宅配事業で業務提携
2007年	3月	佐川グローバルエクスプレスと佐川ロジスティックスが合併。新社名は佐川グローバルロジスティックス
2012年	6月	「SGホールディングス・グローバル」をシンガポールに設立
2013年	5月	SGホールディングス・グローバルがシンガポールの物流企業「アメロイド・ロジスティックス」を買収
2014年	3月	「SG佐川USA」設立
	6月	SGホールディングス・グローバルが、スリランカの「エクスポランカ・ホールディングス」をグループ会社化

SGホールディングスグループ

S = SAGAWA
g = SAGAWA GLOBAL GALAXY GROUP
H = HOLDINGS

【海外法人】

SG HOLDINGS GLOBAL

無錫飛速物流信息科技

東アジア

天津保利佐川国際貿易
上海保利佐川物流
保利佐川物流
上海大衆佐川急便物流
佐川急便（香港）
台湾佐川急便国際股份
SAGAWA LOGISTICS KOREA
EXPOFREIGHT (HONG KONG)
EXPOLANKA FREIGHT (SHANGHAI)

東南アジア

SAGAWA EXPRESS PHILIPPINES
SAGAWA GLOBAL LOGISTICS (PHILIPPINES)
SAGAWA EXPRESS (THAILAND)
SG SAGAWA THAILAND
SAGAWA EXPRESS VIETNAM
SAGAWA GLOBAL LOGISITICS (MALAYSIA)
SAGAWA CUSTOMS BROKERAGE (MALAYSIA)
SAGAWA EXPRESS SINGAPORE
AMEROID LOGISTICS(S)
AMGAS ASIA
PT. SAGAWA EXPRESS INDONESIA
EXPOLANKA FREIGHT (VIETNAM)
PT EXPO UNIPARA ［INDONESIA］
EXPOLANKA FREIGHT (PHILIPPINES)
EXPOLANKA FREIGHT (CAMBODIA)

南アジア・西アジア

EXPOLANKA HOLDINGS

EXPOLANKA FREIGHT ［SRI LANKA］
EXPO FREIGHT ［INDIA］
EXPOLANKA BANGLADESH
EXPOLANKA FREIGHT DUBAI
UNION CARGO ［PAKISTAN］
CLASSIC TRAVEL
他

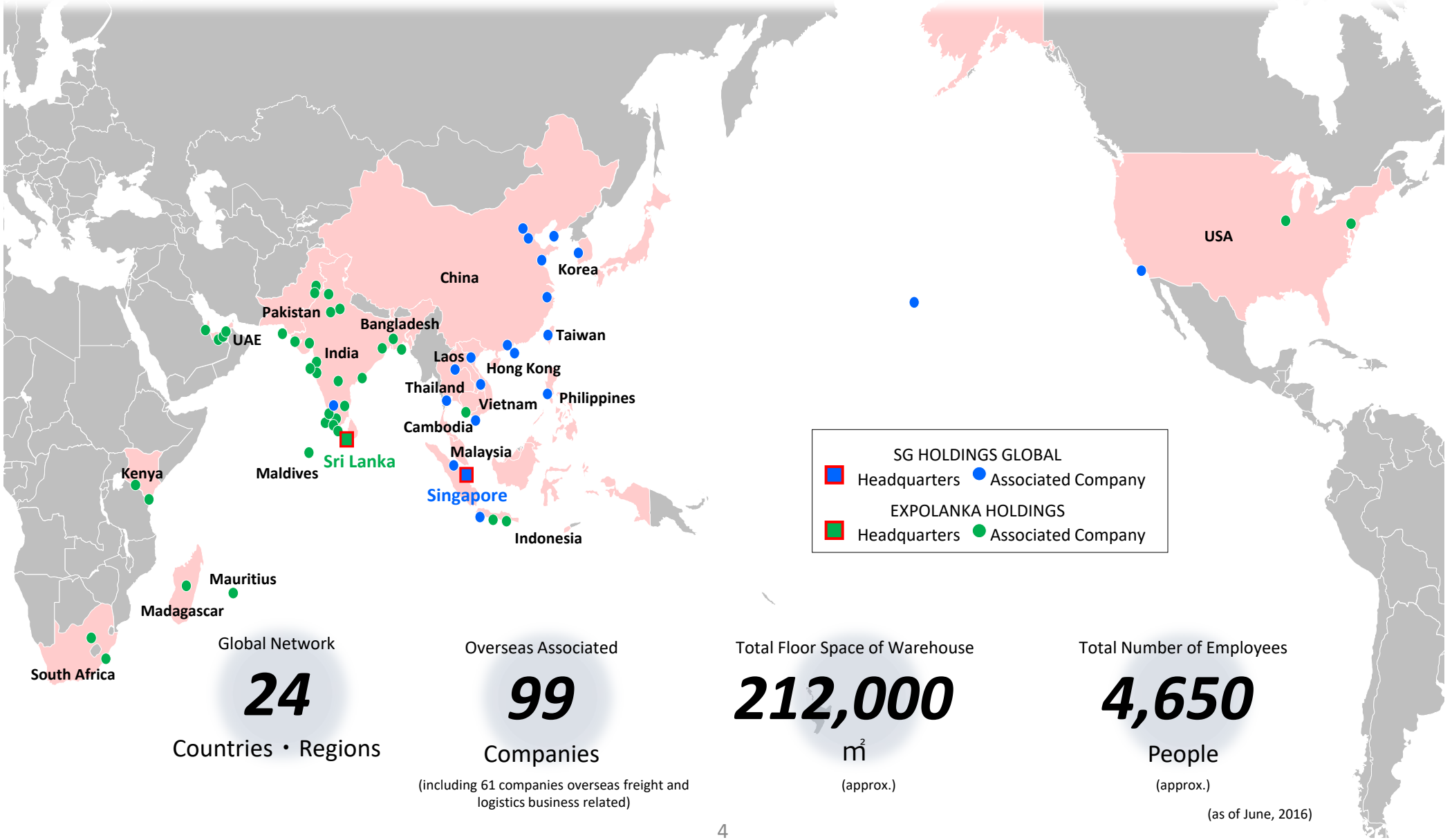
アメリカ

SG SAGAWA USA
SAGAWA EXPRESS HAWAII
EXPOLANKA USA

アフリカ

EXPOLANKA FREIGHT ［SOUTH AFRICA］
EXPOLANKA FREIGHT (KENYA)
EXPOLANKA FREIGHT (MAURITIUS)
EXPOLANKA MADAGASCAR

Global Network



Global Network

24

Countries・Regions

Overseas Associated

99

Companies

(including 61 companies overseas freight and logistics business related)

Total Floor Space of Warehouse

212,000

m^2

(approx.)

Total Number of Employees

4,650

People

(approx.)

(as of June, 2016)

2016年4月　中期経営計画「First Stage 2018」スタート

スリランカの国際企業
エクスポランカへの投資

SGホールディングスグローバルによるエクスポランカ買収

Expolanka Holdings PLCの概要

■本社　　：コロンボ（スリランカ）

■設立　　：1978年（2012年ホールディング制へ以降）

■資本金　　：41億スリランカ・ルピー（約32億円）

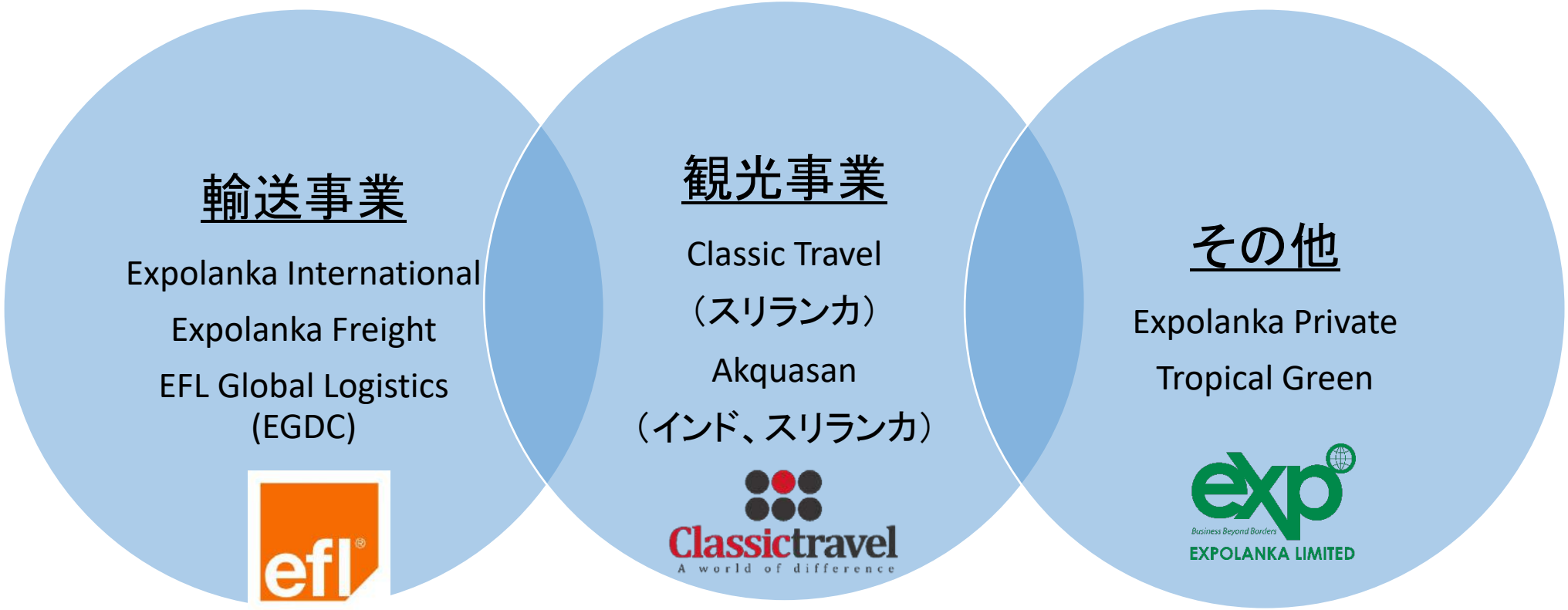
■上場　　：コロンボ証券取引所に上場（2011年）

■グループ総従業員数　：3,172名

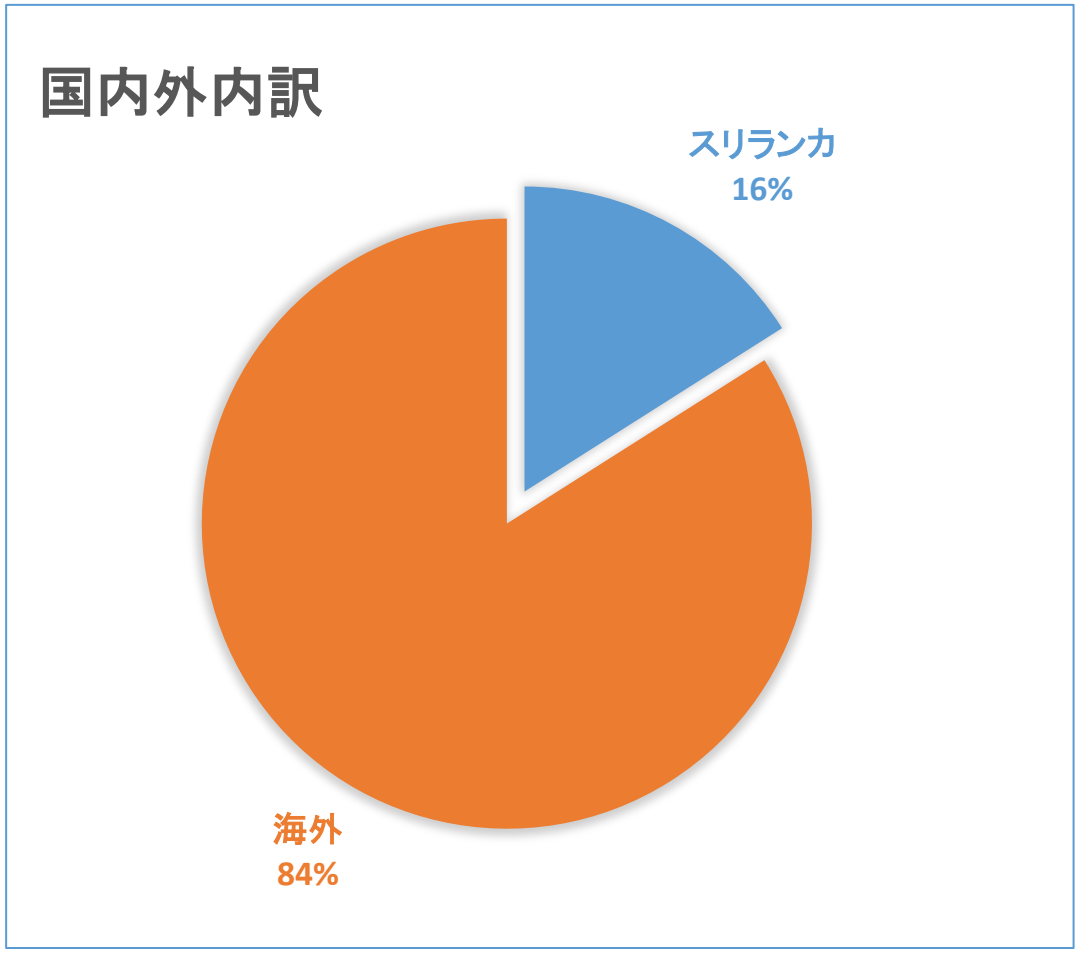
■事業内容　　：国際輸送・物流、観光、貿易、製造、投資

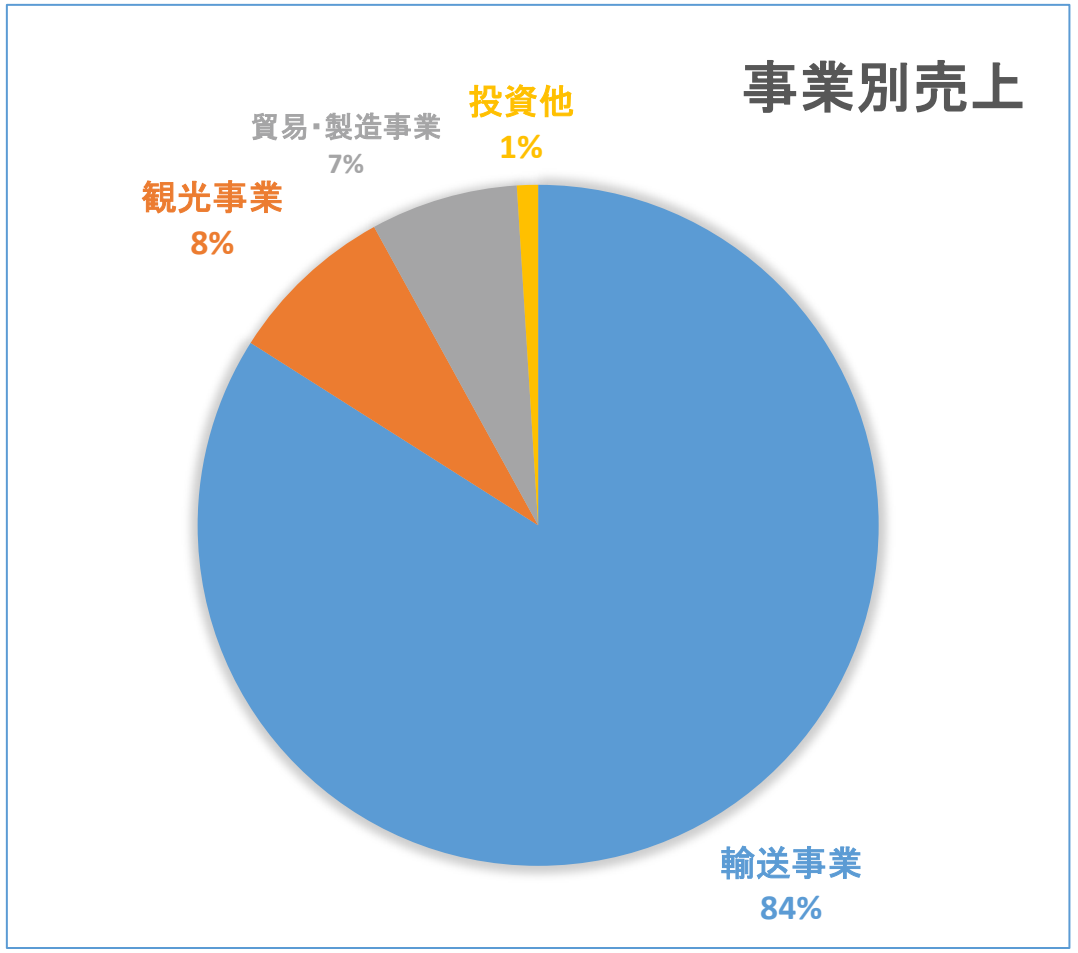
■連結売上（2015年度）：560億スリランカ・ルピー（約437億円）

エクスポランカの事業


輸送事業
Expolanka International
Expolanka Freight
EFL Global Logistics
(EGDC)
efl
観光事業
Classic Travel
（スリランカ）
Akquasan
（インド、スリランカ）
Classictravel
A world of difference
その他
Expolanka Private
Tropical Green
exp
Business Beyond Borders
EXPOLANKA LIMITED

エクスポランカの事業





エクスポランカ出資の背景～双方の意向が合致

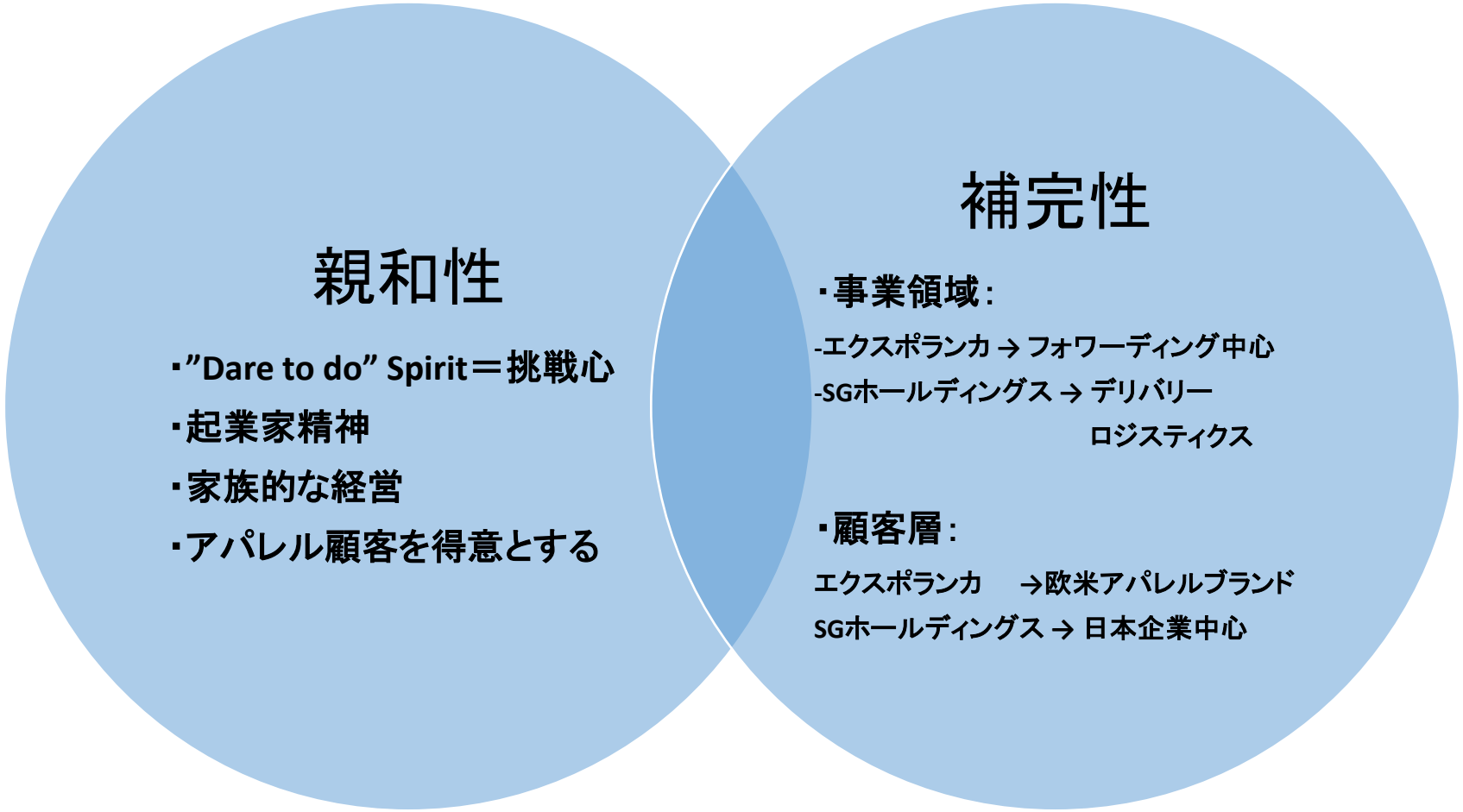
SGH側事情

- フォワーディング事業の成長を軸として海外事業を拡大したい。
- フォワーディング事業の成長には、海外に強いネットワークを有する海外企業のM&Aが必要。
- 南アジアの拠点を拡充したい。

EXPOLANKA側事情

- 海外企業、とりわけ日本企業との提携により更なる成長を目指したい。
- 点と点を結ぶフォワーディング事業だけではなく、その先のロジスティクスとデリバリーのノウハウを身につけ、付加価値サービスを提供したい。

エクスポランカ出資の背景～親和性と補完性



EFLのビジネスモデル

欧米のアパレルブランドの生産地と販売市場を結ぶ輸送サービスの提供

【EFLルート＝西回り】

原材料・製造： 南アジア

↓

物流ハブ：スリランカ

↓

消費地：欧州、米国東海岸

【SGHグループ新ルート（東回り）】

原材料 ・製造: 中国

↓

物流ハブ: 香港

↓

消費地: 米国西海岸・日本・ASEAN

投資先としてのスリランカ

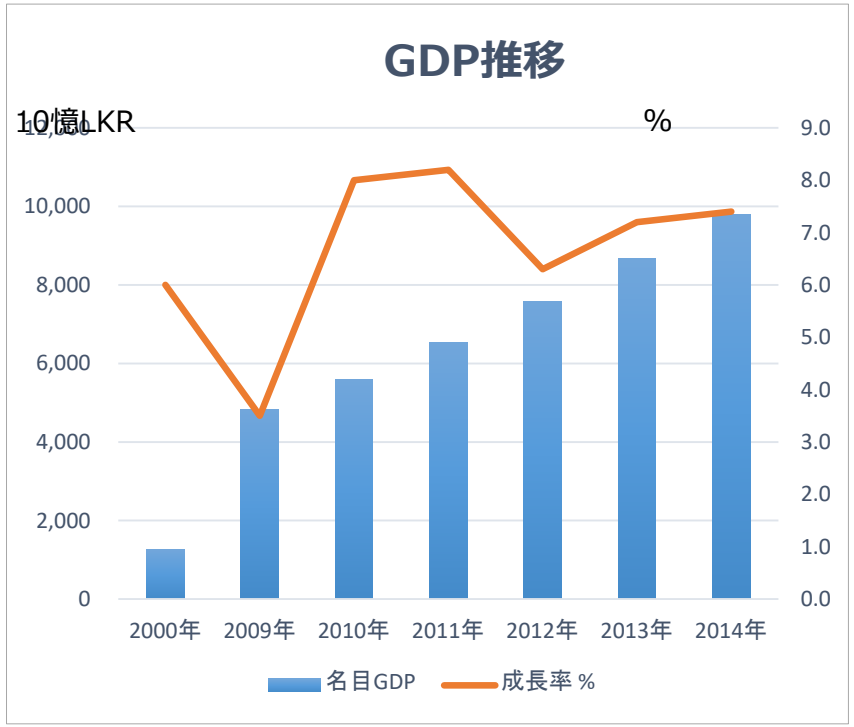
スリランカ概要

【一般概要】

面積	65,610平方キロメートル （日本の0.17倍）
人口	2,096万人（2015年）
首都	スリ・ジャヤワルデナプラ・コッテ
言語	シンハラ語、タミル語、英語
宗教	仏教：　70.2% ヒンドゥー教：　12.6% イスラム教：　9.7% キリスト教：　6.1%
一人当たり名目GDP	US$3,580（2014年）
日本企業進出状況	130社（2016年7月現在）
在留邦人	1,015人（2015年10月現在）

（出所）JETROホームページ

【経済状況】　内戦終了以降、着実に経済は成長している



	2000年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
名目GDP	1,258	4,835	5,604	6,543	7,579	8,674	9,785
成長率 %	6.0	3.5	8.0	8.2	6.3	7.2	7.4

10億LKR
9兆7千8百億ルピー

参考1 LKR=0.95円

（出所）スリランカ中央銀行

日本企業から見た投資環境上の利点

1. 安定した政治・社会情勢

2. 人材の質の高さ

3. 経済成長のポテンシャル

4. 地理的優位性

日本企業から見た有望ビジネスモデル

1. インドへのゲートウェイ

2. Look NEW Market

3. 富裕層、観光客を対象とした市場開拓

EFL　南アジア拠点

■インド

事業内容	フォワーディング全般
拠点数	１９都市２０オフィス
倉庫数	１４箇所
従業員数	５９４名
取扱貨物	電子部品、アパレル、通信機器
取扱物量	航空 25,000ﾄﾝ 海上 20,000TEU

■バングラデシュ

事業内容	フォワーディング全般
拠点数	２都市２オフィス
倉庫数	６箇所
従業員数	２３５名
取扱貨物	アパレル・皮革製品・雑貨
取扱物量	航空17,000ﾄﾝ　海上22,000TEU

■スリランカ

事業内容	フォワーディング全般、 ロジスティクス、島内陸送、 フリーポート・オペレーション、
拠点数	国内１０箇所
倉庫数	５ 施設　　車両数 ５７０台
従業員数	８７７名
取扱貨物	アパレル・雑貨・生鮮品
国際輸送物量	航空 20,900 海上 18,700 TEU

日本企業から見た有望ビジネスモデル

1．インドへのゲートウェイ

2．Look NEW Market

3．富裕層、観光客を対象とした市場開拓

物流ハブとしてのスリランカ

日本企業から見た有望ビジネスモデル

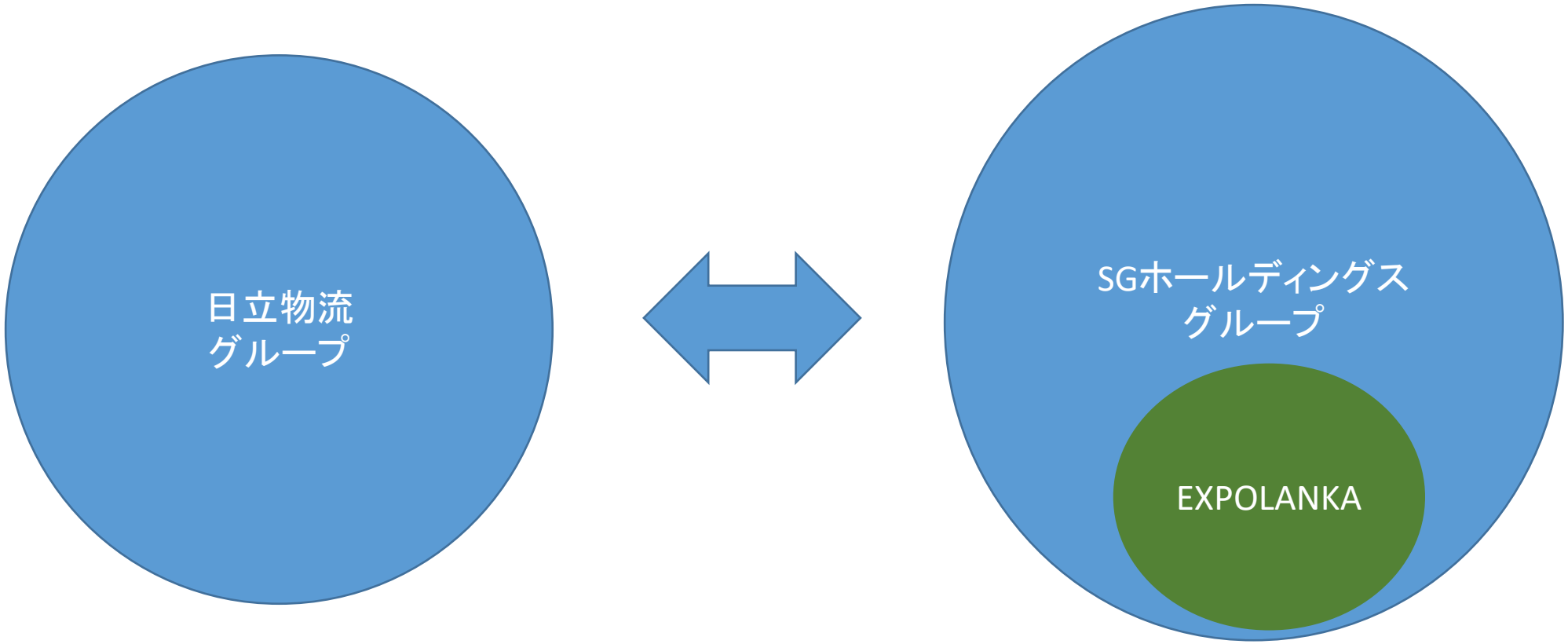
1. インドへのゲートウェイ

2. Look NEW Market

3. 富裕層、観光客を対象とした市場開拓

アジアを代表する総合物流企業へ

日立物流グループとの連携



ご清聴ありがとうございました。